

<かいじゅうの森 保護者アンケートから>

- ① 絵本読みありがとうございました。大勢での絵本読みの時に、集中しない時はどうしたらいいのでしょうか?? 普段から読み聞かせをしていないのがやはり原因だとは思いますが… あと子どもが本を持ったりめくったり、子ども主体の絵本読みになる場合はそのまま子どものペースに合わせた方がいいのでしょうか。難しいです。
- ② 読み聞かせの本を選ぶポイントはありますか?
- ③ 絵本を通して親子のコミュニケーションも高まるのですが、デフファミリーの中のコーダ、ソーダについてはなかなか難しい所もあると思うのですがどう思われますか。

- ① 大勢での絵本読みの時に、集中しない時はどうしたらいいのでしょうか??
普段から読み聞かせをしていないのがやはり原因だとは思いますが…

→子どもたちが絵本の読み語りに集中しない、または集中力が途切れやすい要因として、大きく2つ考えられるのではないかと思います。

1つは、普段あまり読み語りをしていないため、子どもたちがそれを見ることに慣れていないといった、子どもたちのこれまでの絵本に関する環境。もう一つは、選定した絵本が子どもたちの年齢に合っていない、絵が細かく、遠目がきく本ではないなどで興味関心が薄らいってしまったといったことです。

実践の中で、子どもたちが集中しないときは、関係性を築くための潤滑油になるようなゲーム・ワークショップ等のアイスブレイクを取り入れるのも方法の1つかと思います。楽しい時間を過ごす中で、大人の語り手と子どもたちが一緒に笑ったり、仲間を応援したりするなど、共通言語である手話によって感情の部分で互いに共感しあうこと、また、「楽しいね」「すごいね」「またやりたいね」など、大人から子どもたちに向けて素直な感性から発せられることば(手話)の積み重ねは、関係性を築く第一歩になるように思います。ですので、子どもとの距離を縮めることから始めてみるのも良いのではないのでしょうか。

あと、子どもが本を持ったりめくったり、子ども主体の絵本読みになる場合はそのまま子どものペースに合わせた方がいいのでしょうか。

→基本的に子どもが主体的に読もうとしているときは、子どものペースに合わせたほうが良いと思います。子どもが自分から絵本の世界に浸る時間は非常に大事ですし、子どもにとって心弾むひとときでもあるでしょう。そこに、絵本を読み語る大人が介入することで、子どもの興味関心や豊かな想像力をさらに引き出したり、視野を広げる一助になる場合もあります。つまり、子どもたちにとって話しやすく、かつ新しい発見(知識・情報)や深い理解につながるような 大人からの『+ 1 (プラスワン)』の問いかけをするということです。

例えば、絵を指さして「これは何?」と問いかけるのもその一つですし、乗り物の本の中で、子

どもが新幹線を見ているときに、「この新幹線の色は？そう！青だね。この700系の新幹線は一番速いんだよね」とか、「赤い色の新幹線はどこに行く新幹線？そう！秋田に行く新幹線だね」といった『+ 1(プラスワン)』の問いかけやことばがけをするのです。

これによって、子どもの興味関心を広げたり、絵本への深い理解を促したり、新たな知識を得たり、ときには絵本の世界を実体験(実際に見たり、手に触れたりする。例「この前、新幹線に乗ったでしょ。あれが『のぞみ』よ。」)につなげることもできます。

ただ、これは常に行なうわけではなく、子どもの集中力が持続しているかなど、子どもの様子やペースに合わせたほうが良い場合もあります。しかし、上記のように、ときに子どもにとって興味関心がありそうな情報を『+ 1(プラスワン)』の問いかけやことばがけによって伝えることで、親子が対話をしながら絵本を読む楽しさに気づける機会を設けることも大切ではないかと思えます。

② 読み聞かせの本を選ぶポイントがありますか？

まず、前提として子どもたちが大勢参加しての読み語りと、親子での読み語りのような1対1の場合では選定する際のポイントが異なります。

参加者が大勢の読み語りの場合、私はまず遠目が効く絵本を選ぶようにしています。つまり、絵が細かく描かれているものは、遠くからよく見えないため、そぐわないのです。ですので、まず、遠くからでもよく見えるものを基準に選びます。

2冊用意する場合は、1冊は物語系、もう一冊は科学系の絵本にし、特に、科学系の絵本では、子どもとの対話が多くできるものを意識して選びます。

ご家庭によって違いはあるかと思いますが、家庭内での読み語りはジャンルを問わず、日本の昔話やグリム童話など、ある程度自由な選択ができます。一方で、大勢の子どもたちを対象にした読み語りの場合は、厳選して2冊ほどに絞りこまなくてはなりません。

先述の例に則れば、1冊は対話が多いもの、具体的な一例としては『やさいのおなか』があげられます。この絵は何の「やさいのおなかのか？」クイズのように子どもたちと対話しながら楽しめます。もう1冊は物語系で『スイミー』『すてきな三にんぐみ』『三びきのやぎのがらがらどん』『かいじゅうたちのいるところ』など、いわゆるロングセラー本で、比較的多くのご家庭にあり、長く読み継がれているものが良いかもしれません。これらは『やさいのおなか』といった対話系の絵本に比べ、子どもとの対話は少なくなります。

また、季節性を意識した選択もポイントの一つと言えます。例えば、秋は食べ物を意識し、物語系は『かいじゅうたちのいるところ』・対話系は「やさいのおなか」といった組み合わせの選び方も方法の一つかと思えます。

さらに、親子での読み語りの際は、子どもの趣味や興味関心を意識した本選びをすることもあれば、ときに、いつも読み慣れている本以外のジャンルで、親が読んで非常におもしろかった、または心揺さぶられた絵本を子どもに読み語りするのも良いと思えます。

親自身が感動した本や深く理解した本は、当然子どもたちにもその感動や意味が伝わります。た

だ、残念ながらその逆になる場合もあります。親が必要性に迫られて仕方なく読んだ本を子どもたちに読み語ると、かえって伝わりにくくなってしまふこともあるのです。

③ 絵本を通して親子のコミュニケーションも高まるのですが、デフファミリーの中のコーダ、ソーダについてはなかなか難しい所もあると思うのですがどう思われますか。

ろうの親がコーダやソーダだからと言って、音声に合わせた読み聞かせをするのではなく、普段から保育園や幼稚園ではコーダもソーダも音声での読み聞かせに十分触れていますので、できれば、保育園や幼稚園でできないことをご家庭内で体験できたほうが良いのではないかと思います。ですので、ろう児・難聴児・コーダ・ソーダに関わらず、ろうの親が絵本を手話で読み語り、親子で絵本の楽しさに触れることが何よりも大切で、その日々の積み重ねが非常に大事だと思います。